

令和8年度 目標達成計画

グループホームのぞみ苑

作成日：令和 8年 7月 1日

優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	期間
1	2 3 4 9 13 20	・運営推進会議での内容が、地域に向けて発信出来ていない ・市町との情報共有のための様々な取り組みに参加頻度を増やす ・「未来トーク」参加 ・SNS での苑取り組みの発信が不十分 ・今年度は更に外部評価の意見をより吸い上げやすくなるための仕組み作りの継続	・運営会議の内容をより多くの方に発信するために構成委員を増やす ・多職種へ拡大と他施設の参加を募る ・苑により配布先の拡大 ・美祢市長との面談実現（市町を巻き込む） ・伴奏型社会に向けて市町との協力体制を作る ・支所へのピアノ設置を現実化 ・SNS への配信が不十分なぶん、苑により配布で今はカバーする（SNS も頑張る！） ・運営会の外部評価の意見の吸い上げをスムーズにする	・学校関係や地域など、苑により配布先に声をかけるなど、構成員を増やす ・檀家さんのお寺行事には参加継続、苑によりを配布する ・代表が理事を務めるGH協会員施設への運営会議交互参加の実現する ・市町の活動に参加する事で、苑の活動を発信、他施設との情報共有、美祢市を盛り上げる活動に参加する ・美祢市長との相談会に参加し、伴奏型社会に向けたの「のぞみ苑の決意を伝える」と廃校のピアノの活用→支所へのピアノ設置実現 ・日々のキラリ（本人の活躍する場）をもっと職員が、苑により・SNS に載せられるように、日々の活動を撮影する ・7年度に家族から頂いた外部評価に関する意見を反映し、記入項目の簡素化→評価の記入をしやすく。ホームページなどで取り組み、理念を理解していただき、日々の取り組みを評価していただく。	1年
2	7 8 14 19 21 22 23 24	・利用者の想いの実現 ・入退院や医療からの病状説明などの場面でケア側が疎外されている現状がある ・入院時の情報共有と退院後のリハビリなどの医療との連携を強化する	・利用者との会話で、今後の過ごし方の本人の希望通りの実現支援 ・権利擁護、ロイヤー契約の契約内容をしっかりと把握し、不具合があればその都度更新する ・医療との連携を強化 ・医療関係者に ACP、代理意思決定者の言葉の意味を理解してもらえよう、苑から積極的に発信していく ・後見制度やロイヤー契約の利用者の医療連携 対応時に苑の立場を理解してもらおう	・エンディングノートなどを活用して、本人の想いを把握する ・いざという時、誰に自分の希望を代弁してもらうかを日ごろから確認する ・契約内容で不具合がある場合は、利用者、弁護士（後見人）苑での話し合いをし、更新していく ・医療方針の場面で、利用者の希望が通らず、疎外されないように、本人・家族・医療・介護のチーム話し合いの場を作る（特に入退院時） ・後見制度やロイヤー契約などの利用者の医療方針を決めるときは、弁護士と情報共有を強化し、話し合いの場に苑も参加し、チームで話し合いが出来るようパイプ役をお願いする ・運営会議を活用して、ACP や代理意思決定者の言葉の意味など、一人でも多くの方に知ってもらう	1年

		・急変対応力の強化とアクシデント発生時の報告、解決に職員間でばらつきがある	・医療との連携強化、急変など判断し対応力を統一するための研修の継続 ・急変に対応出来る職員の質を上げる	・苑だよりに「チームでの医療方針決定（仮）」などの記事を掲載し、より多くの方に ACP や代理意思決定者の言葉を知ってもらう（苑内研修で職員に共有） ・アクシデント発生時は、すぐに家族に伝えられる関係性を作る（管理者だけでなく全職員対応） ・美祢消防の救急隊員の応急処置の研修を実施する 年 1 回（10月） ・入居者の体調の変化に対し、受診すべきかの判断基準のレベルを上げる研修の実施 ・日々の表情の変化を感じ、言動や行動の違いをアセスメント共有し、必要の際は家族に連絡する ・終末期は特に家族との連携を密にする	1 年
3	1 19 27 28	・介護を提供する場として、倫理的な判断のもとチーム全体で統一された対応を目指す ・職員が、職員の倫理理解度や価値観の違いから報告基準にばらつきがあるため、継続して専門職としての学びが必要 ・本人とご家族のニーズが多様化している中、その思いを尊重しながら日々実行に向け検討しているが、満足にできていない場面やニーズに追いつけない現状がある ・入居者と日々とも楽しむ事が定着しているが、日常の「キラリ」を記録(写真・動画の撮影)する意識が定着できていない	・内部のみでなく外部の倫理・法令・接遇・虐待などの各種の研修への参加や実施を継続し、専門的自覚を向上する。 ・他施設の情報を取り組み参考にしつつも、のぞみ苑の独自の取り組みを確立し、ブランドとして発信し職員の自信に繋げる ・入居者の希望を一番とし、その希望に迫られるように職員が入居者の希望を声に挙げてくれるタイミングをマニュアル化して統一する体制を作る ・家族の希望、本人の想いを聴き、実現できるケアプランを作成できるような情報が提供できる職員を育てる ・家族参加型のイベント実施	・各種研修の継続 外部での参加が難しければ講師を苑に招き、入居者や家族も可能ならば参加を呼び掛けることで、職員としての意識向上に繋げる ・苑は SNS やメールが主流になっても、ケアプランや運営推進会議では伝えきれない内容は、それぞれ家族のスタイルに合わせて、今まで通り対話で伝えるスタイルを変えずに根気よく継続していく ・わずかな時間でも、家族様と会える、話せる時間をとっていききたい ・（対面で難しい場合でも、電話での対話でニーズを伝えるスタイルを確立する） ・入居者や家族の想いを具現化出来るよう対応策を皆で考え、ケアプランに反映し実行できるようにする ・いつも計画している行事の内容を変えて、家族様の参加がしやすいイベントにする ・（音楽イベントなどを取り入れる） ・利用者様が自然とキッチンに入り、食事の準備が出来る空間・環境作りをする	

